



看護部通信

2017.6.27 第48号 聖ヶ丘病院 看護部

伊達市道の駅は、リニューアル5年目を迎え人気売上とも全道ナンバー1だそうです。いつ訪れても人・人・人…特に伊達野菜は「安くて美味しく栄養価が高い」と大人気！私事です先日、伊達警察署から「財布を落としていませんか？」と連絡が…「???」どうやら道の駅に置き忘れたようです。人にも優しい伊達道の駅が益々好きになりました。それにしても財布紛失に全く気が付かなかったとは～。笑い話にしかならず反省あるのみです。

さて、6月7日千葉県幕張メッセで行われました「日本看護協会通常総会」へ代議員として参加してまいりました。坂本すが会長は任期満了となり、福井トシ子さんが新会長に就任されましたことを先ずは報告させていただきます。坂本会長は「看護とは何か」という問いの解明に長年挑んできてなかなか言葉にできずにいたそうです。そして、心身の回復過程を支えるあらゆる関りの中で、その根幹は「生きる力を引き出す」ことにあると辿り着いたと…。私自身も「看護とは?」「看護管理とは何?」と常に問いかけていたこともあり、その答えに胸が熱くなるのを感じました。合わせて「地域の未来をつくっていく創造的変革者であってほしい」とのメッセージに、地域社会へも目を向けた看護活動を行う認識を強めました。

又、6月17日には、北海道看護協会通常総会が開催され H29 年度の重点事業の方針
①全世代型の地域包括システム構築の推進 ②看護職が働き続けられる環境づくりの推進 ③看護職の役割拡大の推進と将来を担う人材の育成を掲げられました。

これを受け当看護部目標にも反映していきたいと考えております。(青山 房子)



～ 通信リレー ～

皆さんこんにちは 工藤優平です。

入社して3年が経ち、今年の3月1日付で3階病棟から4階病棟へ異動となりました。昨年の6月19日の父の日に子供が生まれ早いもので今年1歳になります。



出産時期のお休みなど、3階病棟の皆さんには色々お世話になりました。お蔭さまで子供はスクスクと成長中です。これからも育メン目指し子育て・仕事と4階病棟でも頑張りますのでよろしくお願い致します。 バティ！ 次よろしく！！

～ シミュレーション研修 ～

H29 年度のシミュレーション研修は、テーマを「骨折を疑う転倒転落発見時のチームプレー」とし、準備を進めています。

1回目:7月25日(水)

2回目:9月15日(金)

未参加者が優先です。



さあ
シミュレーション
センターへGO!

～ 第21回 北海道抑制廃止研究会に参加して～ 6月10日(土)

「認知症と共に生きるひとの世界に心を寄せて」をテーマに今年度の抑制廃止研究会が札幌で開催されました。

ときわ病院院長のみやざわ先生の講義では、認知症の理解とそれに伴う薬物治療の現状とバリテーション療法の説明から「薬物を含めて患者に不利益になることは全て抑制とみなす」との一言が心に響きました。

抑制経験を持つ家族からは、母親が転倒等問題毎に薬が増え体幹抑制の状況を目の当たりにし拘束中止を病院側に要請したが受け入れてもらえず、歩行もままならない状態となり本人家族が鬱状態に陥ったそうで、病気を看て人を見ない状況を切々と訴えていました。拘束をしない病院を探し出し、転院後は表情も穏やかになり問題行動もなくなったそうです。最期まで人間らしくということ示唆していると感じました。(6F 看護師:及川 智貴)

宮沢先生によるケアに繋げる認知症薬物治療の理解では、認知症の精神症状を和らげる薬が多く存在するが過度な行動抑制薬を止める勇気も必要であることを学びました。また、認知症のケアとして「安心の場を作る」「頼りの人となる」「孤独にさせない」ことが大切であり、認知症の人に嘘をついたりごまかしたりせず「傾聴」と「共感」を基本にコミュニケーションを行うバリテーション療法が紹介されました。

抑制経験を持つ家族のメッセージからは、同意書のみではなく、十分な説明と理解を得ることが大切で尊厳や苦しみを無視したケアはいけないと改めて感じました。

認知症と生きる方から「認知症になっても不便だが不幸ではない、希望をもって生きる」とのメッセージに病氣と生きる強さを感じました。患者さんに寄り添い支えとなれる介護士になりたいと思います。(2F 介護福祉士:武者 葵)